

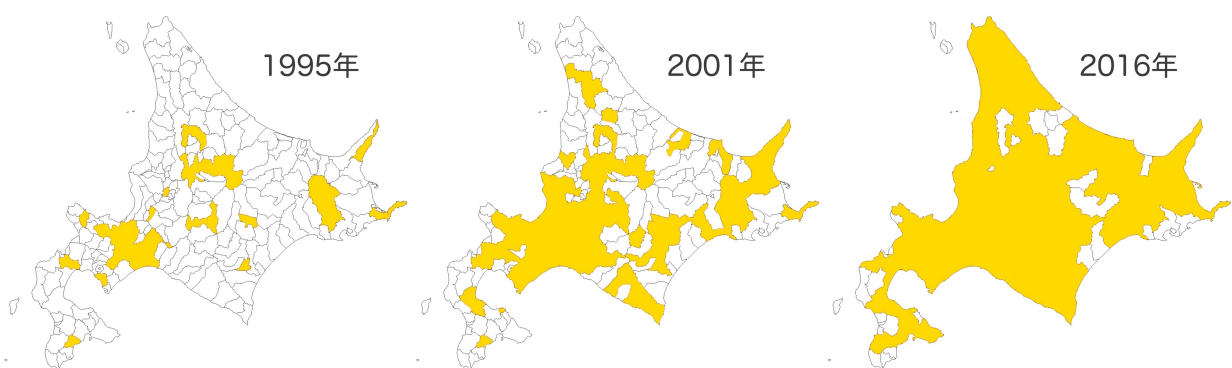
アオサギ観察会

2017年4月19日

アオサギとアライグマ

平岡にアオサギが引っ越してきて今年でちょうど20年になりますね。ということは、野幌のサギたちがアライグマに襲われてから20年。あの年1997年は、アライグマの被害が道内で社会問題化した最初の年でした。

あの騒ぎがあって以降、道内のアオサギはそれほど増えもしなければ減ってもないと思います。一方、アライグマはというと見てのとおり、生息域がどんどん広がりました。1995年の生息域はまだ一部に限られていましたが、今ではアライグマのいないところを探すほうが難しいくらいです。



アライグマの生息分布の変遷（北海道生物多様性保全課公表資料より）

アライグマの生息域が広がれば、それだけアオサギと遭遇する機会も増えます。2012年には岩見沢のコロニーで真っ昼間に次々と巣が襲われるのが目撃されています。その後このコロニーはアライグマが木を登れないよう営巣木にトタンを巻くことで野幌のようなコロニー放棄という最悪の事態は免れました。ただ、これはコロニーがたまたま人の目に触れやすいところにあったから気付かれた幸運なケース。人知れずアライグマに狙われているコロニーは、野幌、岩見沢以外にもおそらくいくつもあるはずです。



道によると、2014年には6,933頭ものアライグマが駆除されたといえます。それにもかかわらず生息域は拡大し続けているのです。将来、アライグマが道内からいなくなることはおそらく無いでしょう。駆除一辺倒の考え方は虚しいだけ。彼らがこれからも道内に生息しつづけるであろう事実を率直に受け入れ、アライグマからアオサギや在来の生きものたちを守っていくために私たちが何をなすべきなのか、真剣に考えなければならない時期に来ているように思います。